



派遣

スタッフが激白!

トンデモ  
コメント

20選

「えっ、本当なの?」と思え  
苦笑いしつつ、広い

るびっくりコメントの数々。  
心で「傾聴」したい。

これは本当なのか? 派遣スタッフを対象としたアンケートでは、稀に、当事者にしか分からない「トンデモコメント」も紛れ込む。いずれの内容も派遣スタッフの主観によるものであり、裏など取りようがない。そんな扱いに困るトンデモコメントに光を当てられるとしたら、やはりおとそ気分が残る新年号ぐらいであろう。さすがに「新春初笑い」というわけにはいかないだろうが、苦笑いしつつ、どんな主観的なコメントであれ、スタッフの気持ちに寄り添う姿勢は忘れない——それを再認識する機会にしたい。  
(選者・文責 伊藤秀範)

“ちょっと **新春** 苦笑い!”

「営業が、特定の人と同じ暴走族だったという理由で優遇していた」  
 (40代スタッフ・製造・2024年9月調査「所属する派遣会社の嫌いなところ」より)



「入院中でも気にせず『仕事、出勤できますか?』などと毎日のようにメール連絡してくる」  
 (40代スタッフ・物流・2024年9月調査「所属する派遣会社の嫌いなところ」より)

「『ハローワークで仕事探せ』と冷たい事を言われた」  
 (30代スタッフ・軽作業・2024年9月調査「所属する派遣会社の嫌いなところ」より)



「急ぎの連絡をしたら、周りがうるさく聞き取りづらかった。理由を聞いたら『ディズニーランドに行っていた』と言われた」  
 (40代スタッフ・事務・2024年9月調査「所属する派遣会社の嫌いなところ」より)

# 不用意な「何気ないその一言」が、スタッフの記憶に深く刻まれる

「言葉の行間」が伝わらない、あるいは「言葉足らず」ゆえの悲劇も

悪意から出た言葉ではないまでも…

数ある「トンデモコメント」の中から、こちらの独断で恐縮だが、20のスタッフコメントを厳選した。ここで紹介するコメントは、過去の本誌アンケート調査の質問の答えの際に「その理由」として寄せられたものである。

今回、対象となった質問内容は「所属する派遣会社の好きなどころ・嫌いなどころ」、「派遣会社の担当者に対する信頼度」、そして「担当者からの『印象に残る一言』」である。

「所属する派遣会社の好きなどころ・嫌いなどころ」では「所属する派遣会社の嫌いなどころ」について、「派遣会社の担当者の信頼度」では「担当者を『まったく信頼していない』理由」の中から選び出した。

いずれのコメントも、派遣スタッフの主観的なものであり、そのすべてが担当者の悪意から出た言葉ではないのかもしれないが、不用意な「何気ない一言」が、担当者、ひいては派遣会社に対する信

頼低下につながることもある。例えば「入院中でも気にせず『仕事、出勤できますか?』などと毎日のようにメール連絡をしていく」(40代スタッフ・物流・2024年9月調査「所属する派遣会社の嫌いなところ」より)などは、入院中であることを知っている相手からの言葉であれば、いくらルーチン業務の流れから派生した定型の連絡事項だとしても、配慮に欠けると受け取られても仕方がないだろう。

老婆心もその後のフォローなしで「悪意」に

また、「エンジニアを目指すなら年齢的にギリギリ」で半分諦め、その後もフォローがないので完全に諦めた(40代スタッフ・製造・2024年3月調査「担当者からの『印象に残る一言』」より)のコメントは、読み方によっては善意の老婆心からの発言とも受け取れる。トンデモコメントに含めるべきかどうかで迷ったものの一つである。

善意の老婆心と受け取られるか、突き放した冷たい対応と受け

取られるかは、結局、その後に続く「その後もフォローがないので完全に諦めた」とのコメントにある、継続したフォローのなさが決め手になったという他ない。それは「仕事を選んでいる場合ではない」と言われて激怒した(40代スタッフ・製造・2024年3月調査「担当者からの『印象に残る一言』」より)などのコメントにもそれはいえる。

こちらも担当者が悪意で放ったわけではないのかもしれない。高望み、ないものねだりのスタッフに対して、もう少し可能性の幅、選択肢の視野を広げてもらうための善意から発した言葉かもしれない。が、スタッフの「激怒した」という言葉からも、それは悪意にしか映らなかったのだろう。

「言葉の行間」を読んでほしいという前提は、言葉を発する側ではないか。善意で発した言葉であっても、「言葉の行間」が伝わらない、あるいは「言葉足らず」ゆえに悪意に歪曲されて伝わってしまうこともある——今回、万単位のスタッフコメントと接する中で、ひしひしとそれを感じた。